

## 医学科入学者選抜における 公正と教育格差

東京医科大学  
大滝純司

## 日本医学教育学会大会 COI開示

筆頭演者名：大滝 純司

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある  
企業などはありません。

### 自己紹介

- 臨床医として: 総合診療
  - 研究領域: 医学教育
    - 基本的臨床能力の教育方法
    - プライマリ・ケア医養成
    - 医学部入試の妥当性: 十数年前から
- ← きっかけの一つがカブール医科大学訪問  
「主な入学者選抜は”部族枠”」

カブール医科大学授業風景  
引用：アフガニスタン国保健医療基礎調査分遣隊報告書(医学教育)  
平成16年2月 JICA医療協力部



### 内容概略

- 前提の確認
- 医学部入試と教育格差
- 学力試験重視の背景
- 学力以外の指標での選抜
- もう一つの懸念「地域枠」
- さらに大きな課題
- 具体策はあるか

### 前提の確認

- 入試は公平でなくても構わない: 文科省
- 公正についての定義: 多様～あいまい
- 不文律
  - 社会が容認
    - △～×: 性別, 人種, 国籍, 宗教など
    - ?: 足切りしてから抽選(小学校はOK)
  - 基準や過程が明示され虚偽がない
    - 裏口はダメだが表口からは金を積み入れられることも

## 医学部入試と教育格差

- 裕福な家庭や都市部出身が有利
- ある環境にいる人が合格しにくい: 公正か?
- 経済格差が教育格差につながる背景は?
  - 大学別の試験対策をしなければ合格しにくい
- この状況が誘導する受験対策の影響
  - 検討されないまま弊害が増しているのでは?
  - 大学独自の学力試験を行う意義は?
  - 過去の「改善策」: 入試科目, 配点, 日程の操作

## 学力試験重視の背景

- ブルデュー(仏の社会学者で哲学者)
  - 文化資本(Cultural capital)
    - : 金銭以外の学歴や文化的素養など
    - : これが高い親が子の地位達成へ有利に影響
- 橋木(日本の経済学者)
  - 日本では学力資本(Learning capital)が優位

## 学力資本: Learning capital

- 荻谷(社会学者)が提唱
  - the core of human capital
  - 出自や環境 < 学習への努力と得られた能力
- 日本の医学部入試
  - 受験学力の一発勝負が多い
  - その背景には学力資本重視か?
- 過度の学力資本重視 → 格差拡大の懸念

## 学力以外の指標での選抜

- 学力とそれ以外の能力を「足し算して順位付け」する誤謬
  - 学力の順位付け: 入学後に意義↓
  - 学力での足り: 進級率を保つには有用かも
  - 他の能力: アドミッションポリシーに沿い多軸的に
- 社会性、他者理解、コミュニケーション、価値観などを測定できるか
  - 順位づけではなく足りりやグレードの形で

## もう一つの懸念「地域枠」

公正性の観点から重大な問題がある

- 法的側面: 志望等変更時の犯罪者の扱い
  - ◀ 医道審議会は恣意的: 訴訟に耐えられるか
- 道義的側面: モラルハザードを誘う制度
  - 入学者へのバッシングやスティグマ
  - ◀ 地域枠入学者を意図的に伏せている大学も
- 教育機会から見て: 地域枠学生の可能性を制限
  - 地域医療教育の普遍化に妨げ

## さらに大きな問題

「低学力」の医学生

- 医学教育は優秀な学生に支えられてきた
  - 少子化で受験生の母集団が縮小
    - 入学後ついていけない学生が増える可能性
- 今の難易度や出題範囲の試験は公正か
  - ◀ 学部で学ぶ内容や国試出題基準は過重に
- 見直すべきことは何か

## 具体策はあるのか

### (1) 全国地域枠

- 医師不足地域(基準は任意)在住者のみ対象
- 自治体は介入しない
- 奨学金とは無関係(個人の契約は妨げない)
- 勤務地も含めて進路の条件なし
- 学力は足りりに(妥当な閾値はIRで)
- 他の能力をMMIなどで測定

## 具体策はあるのか

### (2) より多面的な評価

- 一部の募集枠だけにでも導入
  - 受験生や受験産業に受験学力以外の能力の向上や学習機会の拡充を誘導
- 例1) 本格的ボランティア体験と振り返り
  - ← 英国のWork experience
- 例2) ハンデのある相手とのコミュニケーション
  - ← 諸外国のMMI
- 例3) 読書感想文 など

## 具体策はあるのか

### (3) 卒前教育期間の延長枠

- リメディアル教育などに十分な時間を設定し入学時点での基礎学力不足を補う
  - 例: 共用試験までの期間を1年長くする
  - ← 英国のWidening participationのFoundation courses

## まとめ

- 公正性の基盤は基準や過程の公開
- 大学別試験が教育格差を拡大
- 学力資本を過度に重視することの影響
- 学力以外の指標による評価の実質化を
- 「地域枠」の見直しも重要
- 少子化はさらに大きな課題
- 部分的な改善策導入から始めよう

## 参考資料

- A2MS: Admission to Medical School 医学科入試の妥当性を考える <http://square.umin.ac.jp/a2ms/index.html>
- 賀来 敦, 松下 明: 日本の医学部入試地域枠制度の全容並びに問題点と提言-全国大学医学部募集要項横断研究. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 38:31-37, 2015
- Work experience <https://www.medschools.ac.uk/studying-medicine/making-an-application/work-experience>
- Widening participation in medicine: what, why and how? <https://www.mededpublish.org/manuscripts/1267?platform=hootsuite>
- MMI Courses <https://www.themedicportal.com/courses/mmi-courses/>
- 平成30年度第1回医道審議会医師分科会医師臨床研修部会議事録 <https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000452370.pdf>
- Pierre Bourdieu and Jean-Claude Passeron. *Reproduction in Education, Society and Culture*. p30, Sage, London, 2000
- 橋本 俊昭著: 日本の教育格差 岩波新書 ISBN-10 : 4004312582
- Takehiko Kariya. From credential society to "learning capital" society. In "Social Class in Contemporary Japan" pp87-113, Routledge, London, 2011